

学校教育計画（令和2年度～令和5年度）

学校名	瀬谷養護学校	課程・学科 教育部門・学部	知的障害教育部門 小学部・中学部・高等部
-----	--------	------------------	-------------------------

1 学校のミッション

知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労支援の取組を充実させ、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のために、一貫した教育を行う。加えて児童・生徒が学ぶ楽しさを実感し、主体的な活動を引き出す授業のより一層の充実に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

2 学校教育目標

- 「自立と社会参加」に向けて、小・中・高12年間を通して一貫性のある教育を推進する。
- 主体的な学びを尊重し、ライフステージに応じた学習支援・相談支援・進路支援を系統的に進める。
- インクルーシブ教育の進展を図るとともに、共生社会の基礎となる「共に学び共に育つ」ことが可能な地域づくりを推進する。

<めざす学校像>

- 学びやすい学校
- 保護者や地域から信頼される学校
- 一人ひとりの子どもを大切にする学校

<めざす子ども像>

- 主体的に学び、考え、自己決定できる人
- 働くことに意欲を持つ人
- 人を思いやり、仲間を大切にする人

3 計画策定時点での課題

- 学習指導要領の改訂に合わせ、小学部から高等部までの系統化された教育課程の作成に取組み、教科ごとのつながりを意識してねらいや学習内容の見直しが進んだ。さらに一貫性のある教育の実現に向けて、すべての教科についての学習内容表の作成と活用が課題である。
- 授業改善の手法の確立が進み、主体的に活動する児童・生徒の変容が見られるようになってきた。さらに教育効果を高めるために、組織的に授業改善に取組み、その成果を発信していく必要がある。
- 地域との交流は進んでいるが、学校運営協議会の導入に合わせて地域との協働の場の設定や地域の教育力の活用や向上の手だてを早急に講じていくことが必須である。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立と社会参加をめざし、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、小・中・高一貫した教育課程の編成と、わかりやすい授業づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教務チームと各学部を中心として、学習内容一覧表を作成し、その活用について実践検証を行う。 ・ 瀬谷教育研究所の研究活動を充実させ、成果を校内で共有し校外へ発信する。
2	(幼児・)児童・ 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム支援の視点を重視し、児童・生徒個々の教育的ニーズに適切に把握し、「主体的に学び行動する力」を育成する指導・支援を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育支援チームと教育課程グループを中心として、多面的な実態把握に向けた客観的なアセスメントの活用を図り、個別教育計画に反映させる。 ・ 担任を中心として、校内チームでの連携協力をさらに推進し、個別教育計画のPDCAサイクルを効果的に機能させる。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの将来の自立と社会参加のあり方を見据え、発達段階とライフステージに沿った進路指導・支援を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の視点からのねらい設定を重視し、児童・生徒が主体的に選択し、自己決定することができる学習環境を設定する。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の実現に向けて、地域におけるセンター的機能を継続するとともに、コミュニティ・スクールとして地域との協働による教育活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来構想チームを中心として、地域との協働拠点を開設し、社会との接点として活用する。 ・ 瀬谷教育研究所を中心として、地域の声を反映した授業実践を行い、研究成果を校外へ複数の形で発信する。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての教職員が教育課題を適切に把握し、解決に向けて組織的に対応していくことのできる学校体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の重点化と効率化を図り、働きやすい職場環境づくりを推進する。 ・ 児童・生徒が安全かつ安心して生活できる学校体制づくりに向け、教職員全員が協働して組織的に対応する仕組みを構築する。